

ぐんまこどもの国児童会館

にこっと通信

nicotto tsu-sin!

2009.1.30

第24号



にこっとちゃん

発行／

財団法人群馬県児童健全育成事業団

スペースシアター リニューアルオープン!

3月21日(土) 13:00から一般公開!

昨年12月から、改装のためお休みさせていただきましたスペースシアターが、ついに生まれ変わります!! 県内初のデジタル映像を駆使したプラネタリウムとして、すばらしい映像と音響により、皆様に新たな感動と安らぎをおとどけいたします。ぜひ、ご家族そろってお越しくださいませ。

★ プラネタリウム上映番組 ★

ポケットモンスター
ダイヤモンド・パール
あつまれ! ポケモン 星まつり

上映時間 29 分

子どもたちに大人気。ポケットモンスターが、プラネタリウム番組となって登場します。
ご家族そろってお楽しみください!!



© Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku © Pokémon

宮沢 賢治
銀河鉄道の夜

上映時間 35 分

宮沢賢治の未完の作「銀河鉄道の夜」を、デジタルファインアーティスト KAGAYAが、プラネタリウムのドームいっばいに描きだした、幻想的で壮大なデジタルアート作品。全国でも大好評の話題作がついに登場します。



©2006 KAGAYAスタジオ

星空散歩

上映時間 20 分

当館職員が解説する、プラネタリウム番組です。

季節ごとに星空解説が変わります。四季の星空をお楽しみください。



★リニューアルオープン後、初の一般公開の上映時間は、3月21日(土)13:00から「銀河鉄道の夜」以降下記表のとおりとなります。

リニューアルオープン特別上映 3月22日(日)~4月5日(日)まで

10:00	11:00	13:00	14:00	15:00	16:00
星空散歩	ポケモン	銀河鉄道	ポケモン	銀河鉄道	星空散歩

- 3月28日(土)、4月4日(土)は企画投影のため、上映時間が変更になります。
- 4月7日(火)以降は、上映時間が変わります。

今年は
世界天文年です

ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を夜空に向け宇宙への扉を開いてから400年にあたります。



詳しくは、ぐんまこどもの国児童会館まで、お問い合わせください。

休館日

1月…13日(火)・19日(月)・26日(月)
2月…2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)
3月…2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)

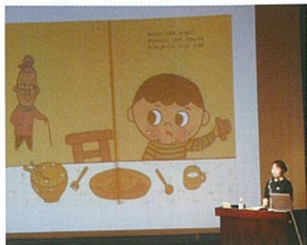


ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町 480
TEL. 0276 (25) 0055 FAX. 0276 (25) 0059
URL <http://www.kodomonokuni.or.jp/>

『もったいないばあさんと考えよう 世界のこと』

今回は昨年12月3日に行われた、絵本作家、真珠まりこ先生による講演会を紹介します。真珠先生は、絵本「もったいないばあさん」やワールドレポート展で、全国の子どもたちに、深刻な世界の問題が自分たちにも関係があることを伝えてきました。難しい問題をどのように子どもたちに教えていくか…公演の内容を抜粋してお伝えします。



◆**もったいないばあさん誕生秘話** 当時4才だった自分の子どもに「もったいない」の意味を聞かれ、一言で説明できることがみつけれなかったことがきっかけで、絵本「もったいないばあさん」が生まれました。小さい子は、文章で長々と説明しても理解できないけれど、心で思うように、イメージで伝えることはできると思い絵本を作ることにしました。読んでいるうちに、なんとなく意味がわかってくれればいいなと思います。

◆**もったいないばあさんの「もったいない」とは…** もったいないばあさんの「もったいない」には愛があります。お気に入りのものを愛着をもって、長く大事に使うことだったり、作ってくれた人や自然への感謝の気持ちだったり。ケチではないんですよ、ケチは執着だと思うんです。「もったいない」とは仏教の言葉で、すべてのものには生命があり、命あるものを粗末にしてはいけないという教えのことばだそうです。

◆**世界の問題を子どもに考えてもらおう〜ワールドレポート展〜** ある日、厳しい環境で暮らす世界の子どもたちの話を取り扱ったドキュメンタリー番組を見た息子が、「自分は日本人で良かった…」と言いました。自分が無事でよかったってそれで終わって欲しくない、自分たちの生活と決して無関係じゃないよということを息子に、そして、今の時代を生きる子供たちに知ってほしいという思いで、もったいないばあさんのワールドレポート展を企画しました。

この展示会は、もったいないばあさんをガイド役に、今地球上で起きている問題と世界の子どもたちの現状、そして、それらが私たちの暮らしとどのようにつながっているのかをお伝えしています。今地球上で起きている問題は、命のことをまず第一に考えていたら、起きなかったのではと思うものばかり。命の大切さを伝える「もったいない」ということばと、もったいないばあさんのメッセージで、問題の本質をシンプルにわかりやすくお伝えすることができたように思います。

◆**自分と世界の関係** ワールドレポート展でのギャラリートークでは、地球儀を持って、子ども達に「これは地球です」とお話しすることから始めます。「地球の上には、日本以外にもたくさんの国があって、それらの国を全部合わせて世界とよんでいます。今日はみんなの知らない、どこにあるかわからない国の話が出てくるかもしれないけど、知らない国の子どもたちも、みんな同じ地球人、地球のお友達の話だと思って聴いてください…」と続きます。

◆**世界の10人の子ども達** 10枚のタペストリーでは、10人の同じ年の子どもがそれぞれの現状を語っています。

1・先祖の債務を返済するため、カーペット工場で働かされるインドの子ども。／2・地雷を踏んで、足を亡くしたカンボジアの子ども。／3・水くみに1日かかり、ネパールの子ども。／4・戦争で肉親を亡くし、難民キャンプに逃れてきたアフリカ・スーダンの子ども。／5・毎日、生活の糧を得るためゴミを拾うインドネシアの子ども。／6・たばこ畑で働き、戸籍がないメキシコの子ども。／7・さらわれて、兵士になる訓練を受け、戦場に出るアフリカ・シエラレオネの子ども。／8・ストリートチルドレンとして暮らすロシアの子ども。／9・両親がエイズで死亡し、子どもたちだけで暮らすアフリカ・レソトの子ども。／10・好き嫌いがあって、食べ物を残してしまう日本の子ども。

◆**世界の10の問題** また、子ども達と関わりのある10の問題を取り上げています。1・天気がおかしい…気候変動による洪水、干ばつなど。／2・森が消える…森林伐採による洪水、砂漠化など。／3・土地が荒れる…大規模農場などの開拓で土地が荒れる。／4・生きものが消える…生物多様性が失われる。／5・食べ物が足りない…お金が無くて買えない。異常気象で食料が不足する。／6・きれいな水が飲めない…雨水や非衛生な水しかなく病気になる。／7・戦争が起こる…人から物を奪う、宗教や考え方が違うことで争う。／8・難民が生まれる…戦争や災害によって土地に住めない。／9・子どもが働かされる…家が貧しく、働かないと生きていけない。／10・お金持ちと貧しい人の差が広がっている…貧しい人たちは貧しさからぬけられない。

◆**子どもと問題は関係している** 気候変動による災害、干ばつ、砂漠化、洪水、海面上昇や、熱帯林の開拓などで土地が荒れ、作物が育たなくなってしまうことで、その土地に住めなくなる人達がいます。移り住んだ先では、元々住んでいた人たちとの間で争い事が起こることもあります。戦争の後には地雷が残っていたり、貧しさから人々の心が荒れた地域では、親が子ども達の面倒を見なくなってしまうこともあります。そうした土地に生まれた子ども達は、レポートの9人の子どもたちのように、貧しさから働かされたり、子どもの兵士として戦ったり…。また、学校にいけないから読み書きや計算も出来ず、大人になってもいい仕事につけなくて貧しさからぬけられない…といったように、負の連鎖からぬけだすことができません。

◆**日本はお金持ちの国に入るけれど** 世界の9人の子どもたちと違う10人目の日本の子ども。食べ物を残して「もったいない」ですね。9人の子ども達とどんな関係があるのでしょうか。

日本の食糧自給率は約40%。今自分たちが食べている食料が10個あったとすると、そのうちの4個しか日本で作られてなくて、後の6個は外国から輸入しています。もしかしたら、貧しい国から運ばれてきたものが含まれているかもしれません。また、食べものが足りなくなると値段が上がります。私たちが買うことによって、お金のない貧しい人たちがますます買えなくなっているかもしれません。作物が育つにも水が必要です。食べものを輸入するということは、水も輸入するということになります。それなのに、食べ残しをするなんて…もったいない！

私達が暮らしの中で使っているものの中には、貧しい国の貧しい子ども達が、学校にも行かず作ったものが含まれているかもしれません。それは、サッカーボールかもしれないし、チョコレートかも、そして、Tシャツや携帯電話かもしれません。

世界で起きていることは、私たちの暮らしとつながっていて、決して無関係ではないのです。



「自分さえよければと言う考えをもたず、分け合う気持ちがあれば、平和な世界が必ずできる。どうすれば皆で平和に幸せに暮らしていけるかを考えていこう。できることをやらないなんて、もったいない。」—もったいないばあさんからのメッセージです。



こども相談室 子育て通信

「ぼくの夢、わたしの夢」

ー夢は、こどもを大きく育てますー



あなたのお子さんは、どんな夢をもっていますか。あなたは、お子さんの抱いている夢を知っていますか。

今年も、第17回「ぐんまこどもの夢大賞」応募作品展が当館で開かれました。絵画部門では、子どもたちが夢を大きくふくらませていきいきと表現した作品 8,046 点もの応募がありました。

子どもたちの作品の中で目立ったのは、「オリンピックに出たい」という夢でした。この夏北京オリンピックが開催され、選手たちの活躍を身近に感じたことからでしょうか。

また、食糧危機やエコの問題などを敏感にとらえた「自給率 100%をめざして」や「太陽光発電」等もありました。

今回は、この応募作品の中から小学3、4年生の夢を集計してみました。

3・4年生の将来なりたい職業などの夢ベスト10

1位 スポーツ選手

「プロ野球選手になり活躍したい」や「甲子園に出場する」が男子の中でトップで、サッカー、水泳、柔道の順です。

2位 ケーキ屋さん

女子の1位が「ケーキ屋さんになりたい」です。(パン屋さんやおかし屋さんも含まれています。)

3位 動物や魚・虫と触れあって生活する

野生の動物と自然の中で、なかよく暮らしたい。

4位 未来の生活(科学技術の進歩による生活)

エコハウス、太陽光発電の家、宇宙旅行や宇宙での生活。

5位 獣医

動物に関する仕事として、動物の飼育員やトリマーが少数含まれています。

6位 医師・助産師

7位 音楽家

ピアニスト・ヴァイオリニスト・作曲家等

8位 科学者・発明家

化石の発掘などを行う考古学者を含みます。

9位 未来の生活(自然に囲まれた中で生活)

「ツリーハウスを作って住みたい」や「海の中で生活したい」

10位 幼稚園の先生・保育士

看護師の順でした。ファンタジーや興味に関する夢もたくさんありました。

続いて、絵画の中からおく一部ですが“児童の夢の説明”を取りあげてみたいと思います。

●5才 女兒「お花やさんになったわたし」

おはながだいすきなので、まいにちお水をあげて、たくさんきれいな花を育てたいです。そして、わたしのお花やさんにきたお客さんによろこんでかってもらいたいです。

●1年 男子「ちきゅうとなかよし」

ぼくの夢は、ちきゅうがみどりていっぱいになって、せかいじゅうのみんなとなかよしになることです。

●1年 女子「わたしのゆめはケーキ屋さん」

大きくなったらケーキ屋さんになりたいです。おいしいいちごやブルーベリーのタルト、モンブランをうります。

●2年 女子「イルカといっしょにおよぐ」

わたしは、海がだいすきです。いつか青いうみをイルカといっしょにおよぐのがゆめです。

●2年 男子「ロボットとサッカーをするぞ」

ぼくは大きくなったら、ロボットをつくるエンジニアになりたいとおもいます。そして、ロボットといっしょにサッカーをします。

●3年 女子「小児科の医者」

今、医者が少ない。特に小児科の医者がいないので小児科の医者になりたい

●3年 男子「みんながなかよく住める森」

動物も人間も鳥も魚もこん虫も、みんないっしょに住める森があったらいいな。

●4年 男子「化石を発掘している、大人のぼく」

ぼくは、恐竜が大好きで、将来の夢は化石を発掘する人になることです。誰も発見していない恐竜を発見したいです。

●5年 男子「甲子園にいくぞー」

ぼくは今、少年野球で頑張っています。将来の夢は甲子園に出場することです。甲子園にいくぞー！

●6年 女子「みんなを笑顔に…声優になりたい」

私の夢は声優です。でもただの声優ではなく小さい子からお年寄りまで笑顔になっちゃうような声優になりたいです。

お父さん、お母さんの子どもの頃の夢と比べていかがでしょうか。みんなの夢がかなうといいですね。夢にむかってジャンプ！！

そして花屋、バレリーナ・ダンサー、建築関係・大工、歌手、

ぐんまこどもの夢大賞

第17回



入選作品



「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。今年は18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2部門を夏休みに合わせて募集を行い、絵画8,046点、童話388点というたいへん多くの皆様から作品をいただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞16点、銀賞24点、銅賞42点、奨励賞105点が、童話は最優秀賞1点、金賞1点、銀賞7点、銅賞6点、奨励賞11点が入賞しました。

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。

インタビュー
内容

①受賞を知ったときの気持ち ②制作時間 ③どうしてこの作品をかこうと思ったか
④次は何を描きたい? ⑤将来の夢 ⑥保護者のことは

絵画



前橋市立岩神小学校 1年
いで あすか

井出 明日佳さん

「私のケーキ屋さん」



①びっくりしました。うれしかったです。

②わすれちゃった。

③ケーキ屋さんになりたいから!

④ケーキの絵 (いちごつき)

⑤看護師さん。やってみたいから。

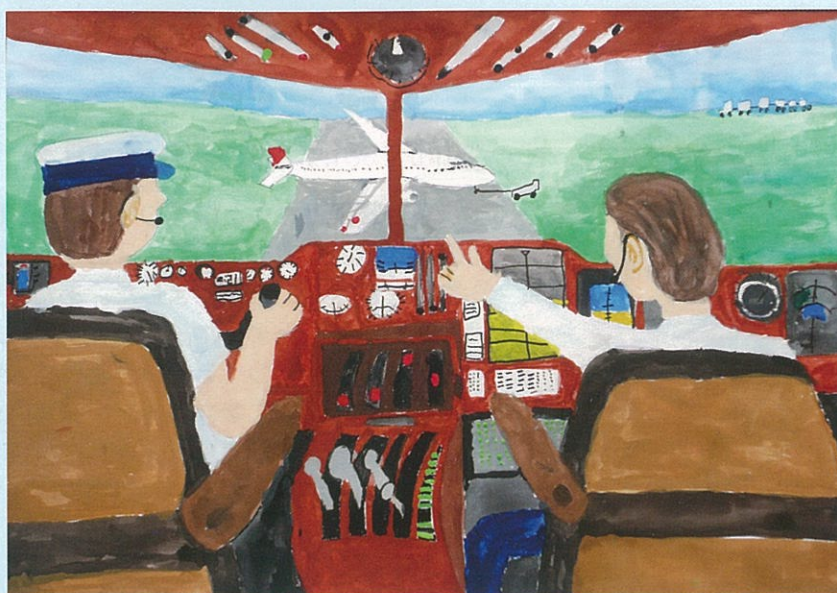
⑥絵がすきで、いつも描いています。この絵も普段の延長で描いて、出ただけでした。アドバイスもなく、うまく描こうとしなかったの、びっくりしました。



群馬大学教育学部附属小学校 2年

すずき そうた
鈴木 崇太くん

「ぼくのゆめはパイロット」



- ①ほんとかなあ(学校から手紙が来たとき)。表彰式の時、ちゃんとできるかなあと思いました。
- ②4日間。1日2時間。絵の具だけで描きました。
- ③少し前から飛行機が好きになりました。沖縄、長崎に家族旅行に行ったとき飛行機に乗りました！
- ④もっと、すごい絵を描いてみたい。図工ではほめられます。
- ⑤パイロットになってみたい。
- ⑥百年に一度あるかないかの出来事です。僕(お父さん)には描けないような絵です。



高崎市立下室田小学校
6年

みやした まみ
宮下 真実さん

「まん画家の夢」

- ①昨年、銅賞だったので、今回は最優秀賞を目標にして描きました。うれしかったです。
- ②グラデーションに気がかったので、1ヶ月くらいかかりました。
- ③将来の夢が漫画家というのもあるし、自分の夢をみんなに知ってもらいたかったから。尊敬する漫画家は手塚治虫さんです！
- ④現実にはない世界。自分がこうなったらいいなと思う世界。初心を忘れずに描き続けたいです。
- ⑤小さい子どもから大人まで楽しめる、幅広い作品が描ける漫画家になりたいです。
- ⑥暇さえあればいつも絵を描いているので、この賞をきっかけに漫画家になれたらいいと思います。



童話



なかざわ まなみ
中澤 愛美さん
渋川市立渋川中学校 3年

- ①まさか賞がとれるとは思わなかった。最優秀賞だったのでうれしかったです。
- ②構想が練ってあったので、2日くらいで書きました。
- ③物語を書きたいと思いました。あたたかい内容にしたいくて夢（眠ったときにみる）にしてみました。（自分はあまり夢を見ないので）
- ④私の理想の国をつくるというような内容のものを書いてみたいです。
- ⑤人を心から元気にできる仕事。医療関係かな？
- ⑥本を読むのが好きで、自分なりの世界を持っていると思います。こんなすてきな賞をもらえたなんて、驚いています。



二十三日の夢



私は、毎月二十三日になると不思議な夢を見ます。本当に実在するのかも、夢なのか体験しているのかも分からない夢。でも、決してそれを忘れることはありません。私の心へと深く深く刻まれていくのです。

先月はこんな夢を見ました。

辺りを見回すと、緑、緑、緑。色々な種類の木が所狭しと生えている。そんな緑の世界を通る川。川の中の岩にもコケが生え、水も緑や青緑に輝いている。その森に私は裸足で立っている。朝日が降り注ぎ、水の反射で上を見ても下を見てもきらきらの世界が広がっている。私は片手で光を遮りながら、青の絵の具を一滴たらす。絵の具はぼわっと広がり、だんだんと大きく、うすくなっていく。今入れた絵の具が完全に川の水に溶かされたと思った瞬間、絵の具と同じ色をした小指くらいの鳥が川からばさっと顔を上げる。一羽だけかと思い、中をのぞこうとすると次から次へと青色の鳥がまるで太陽へ向かっているように、竜巻のように円を描きながら上へ上へと上がっていく。川のせせらぎしか聞こえなかった森に小さいながらも懸命に天を目指す羽音がばさばさと森を掻き立てる。何秒、いや何分経っただろうか。少し遅れて出てきた最後の一羽は私の頭の上に止まり、ちょろっと鳴いてまた天へ昇っていく。私はそれを笑顔で送る。

またある月の二十三日はこんな夢を見ました。夏の蒸し暑い日だったのでしょ。

ただいま、という大声と、どたどたと近づいてく

る音。七つ年の離れた弟が外から帰ってくる。手には大きな、顔くらいありそうなひまわりを持って。お姉ちゃんあげる、ととびきりの笑顔で私にひまわりを差し出す。私はありがとう、といって受け取り弟の頭をなでる。何か飲み物を入れてあげようと思い、席をたつ。グラスに氷とよく冷えた麦茶を注ぐ。からからっという涼しげな音が気持ちいい。麦茶の入ったグラスを弟に手渡す。私はもらったひまわりを花瓶に入れて戻ってくると、弟が急に叫んだ。お姉ちゃん、お姉ちゃん、お姉ちゃんがいるよ。弟が私のもとへ駆け寄ってきて汗をかいたグラスを渡す。私も一緒になって中をのぞくと、そこには私がいた。氷の中でじっとしている。固まっているのだろうか。私はその氷を取り出し、ベランダへと運ぶ。氷が溶け、水がアートを描き始めたとき、ぱっと小さな私が動いた。氷の中はよほど寒かったのだろう。まだ、唇が青くがくがくしているが、温かい空気に触れることができてうれしそうだ。それから三日くらいただただろうか。小さな私は私の後をてくてくとついてくる。この世界は初めてなのだろう。私が使った鉛筆に興味を持ったり、鏡に映った自分を見て不思議そうに鏡の自分をつついていたりする。お昼、できた氷を冷凍庫に移しているとき、小さな私は高くジャンプして冷凍庫の中にするっと滑り込んでいった。あっと思い、もう一度冷凍庫を開けると案の定その中には冷たい空気とかちかちの氷が入っているだけで、小さな私はどこにも見あたらなかった。

それから、私が印象に残っている夢を紹介します。

私は絵本を読んでいる。ふんわりと優しい感じの絵に惹かれて買った絵本。ここは満点の星空の下。眠りの浅い私はよくここへ来る。大きな木が一本たくましく立っているその横で私はゆっくりとページ

をめくる。その本は、満月の夜だけ花が咲いて実をつける大きな木のお話だった。その日はちょうど満月で月明かりが私を照らす。ぼおっという神秘的な光に包まれながら私は上を見上げる。今にも落ちてくるんじゃないかと思わせるほどの数々の星、そして大きな木。その大きな木には花が咲いていた。夜咲く花は珍しい。じいっと見ているとぽかぽかっと音が聞こえてきそうな勢いで星の数と同じくらいの花が咲いていた。スピードがものすごく速い。つぼみがふくらみ花が咲き、枯れ、実ができる。私はただ呆然とそれを見ていた。いつの間にか辺りは甘い香りに包まれ、月が沈みかけていた。すると、大きな木になっていた赤や黄色や橙色の実が蛍のように輝きながらゆっくり、でも着実に空へ空へと昇っていく。四つが二つになり、二つが一つになる。だんだんと大きくなりながら、向こうの方へと流れていく。月が沈み、辺りが真っ暗になったとたん、さっきの実が太陽の振りをして一日の始まりを告げていた。実が太陽に化けていたのか、太陽が実に化けていたのかは分からなかった。でも、これだけは言える。今まで見た朝日、日の出の中で一番大きく、優しく、きれいだった。

それからもう一つ。

私は英語の宿題をしている。新しく習った単語を書き終えて一息つく。これで今日の宿題は終わり、と思い、ノートを開じようとする、字がゆがんだ気がした。あれっと思い、もう一度開き直すと、字はちゃんと並んでいる。顔がにやける。いいことを思いついたのだ。私は閉じるぎりぎりまでいってから、ぱっと一気にノートを開いた。すると、そこに広がっていた世界。ありの大群だった。きちんと色ペンやシャープペンシルを使って、書いたのに、一画一画がありになっているのだ。赤いありや、青いあり、そして黒いありが白いノートを埋め尽くそうとしていた。本当にありなの、と思い、休憩中に飲もうと思っていたオレンジジュースをノートの上に一滴たらした。すると、我先にと言わんばかりにオレンジジュースにのしかかるありたち。よく見ると黒いありもカラフルなありもかわいい。でも、せっかくの宿題が。私は力任せに勢いよく、ぱたんとノートを閉じた。そして、そおっと開ける。もう動くものはなかった。そして、書いた直後よりも少しびびつな英単語と、かすかに残るオレンジジュースの跡があった。

それでは、最後にとっても大切な夢を話します。不思議な夢を見るきっかけとなった三年前の二十三日

の夢です。

私の部屋の前にはサルスベリの木がある。毎年夏になると鮮やかな桃色の花を、枝が垂れ下がるほどつける。私はそんなサルスベリが大好きだった。そのサルスベリの木に四羽の青い鳥が手紙をくちばしで支えながら飛んできた。よほど遠くから飛んできたのだろう。枝にとまった鳥たちは肩で息をしていた。そして四羽で顔を見合わせると一気に飛び立っていった。

これが、私の見た最初の不思議な夢です。そしてその夢は現実でもありました。

その夢を見た次の日、私は跳ね起きました。私の部屋の前にサルスベリの木はあったし、なにより本当に水色の手紙があるのです。私はその手紙の所へ飛びつくように行き、封を切りました。手紙には何も書いてありませんでしたが、きっとそれは私の母からだったのでしょう。両手で手紙を抱えるようにして家の中へ戻りました。嫌な予感がしていたのです。ふと、時計を見ると六時四十七分。私は急いで朝食の準備を始めました。私の家に父はいなく、母は仕事が忙しくなかなか家にはいないので、私がほとんど弟の面倒を見ていました。卵を取り出しながら目玉焼きにしようかスクランブルエッグにしようか迷っているとけたたましい音で電話が鳴りました。それは母の職場の人からで相当取り乱していました。予感が当たってしまった、と不安に駆られながら、何度も何度も聞き返し、やっと母が職場で事故に遭ったこと、それは即死だったことが分かりました。そして、六時四十七分が母の死亡時刻だったそうです。あの鳥たちは私のためにあんなにも急いで、母の死を知らせてくれたのでしょうか。その後のことはよく覚えていません。気づいたら、時間がたっていて、そして本当に母がいなかった、というだけでした。

あれから三年。私を奈落の底へ突き落とし、そして、そこで生活する術を与えてくれたのは母でした。そうです、毎月、母の月命日に見る夢が私に元気と安心をくれるのです。お母さんは私を今でも見守っているのだと思います。不思議だけど優しい、そして温かい夢を母は私にみせてくれるのです。でも、時々これは夢なんかではなく本当の現実なのではないか、と思うことがあります。初めての二十三日の夢は現実になりました。あの母なら、こんなことなど簡単に実現させてしまうでしょう。いつか、私はあの大きな木を見ることができるようでしょうか。小さな自分に会うことができるのでしょうか。その時は、きっと母にも会える時なのだと思います。

いきいき ボランティア

額田昌平さんと登美子さん

今回は、「おもちゃの病院」に登録されている額田昌平さん、「こども図書室」に登録されている奥様の登美子さんご夫婦を紹介します。

Qこの施設でボランティアを始めたきっかけは？

A(昌平さん)妻に勧められたのがきっかけです。(登美子さん)開館当時の館長が県庁にいらしたときに、婦人国外研修団員でお世話になったことがあり、その縁で。

Q実際に活動してみての感想は？

A(昌平さん)子どもたち、スタッフやボランティア仲間との会話が何よりの楽しみです。(登美子さん)とっても楽しく元気をいただいています。

Q長く活動されていますが、その秘訣は？

A(昌平さん)時間の都合のつく範囲内で、身の丈にあった活動すること。(登美子さん)好きなことをさせていただいているからでしょう。絵本も好きですが、なにより子どもたちの笑顔を見ていると、生き甲斐を感じます。

児童会館での活動も18年、今では息子さんの奥様も当館「赤ちゃんサロンベビーマッサージ」の講師をされている額田さんご一家。今後もよろしくお願いいたします！！

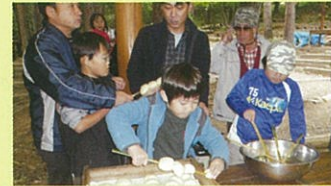


ふれあい自然活動

焼きまんじゅうづくりとオリエンテーリング

11月9日(日)、12組の親子が東毛少年自然の家で、焼きまんじゅうづくりとオリエンテーリングに挑戦しました。

お祭りの屋台では定番の焼きまんじゅう。香ばしい味を思いうかべ、大人も子どももやる気十分。生地を練り上げ、ねかせている間に、慣れないナイフで竹を削って、愛着満点「マイ竹串」も完成。ねかせた生地を丸めて蒸すと、まるまるふっくらおいしそうなおまんじゅうに変身。これを串に刺し、こんがり焼き上げ、たれをたっぷりつけて豪快にほおばると…ん〜っ、最高！ふるさとのおいしさが、ほっぺにもちょっぴりつきました。



当日は、寒かったけれど、あつあつのすいとんもいただき力をつけて、いざオリエンテーリングへ。5文字のキーワードを探しながら、八王子丘陵を歩け歩け。あいにくの曇天でも、茶臼山頂上からうっすら見えた赤城山は…ん〜っ、感動！登って降りて1時間半の行程は疲れたけれど、焼きまんじゅうパワーで全員踏破しました。そして、キーワードの答えは？参加者以外のみなさんは、来年の同イベントまでお楽しみに。

フォーミュラカー&ドライバーがやってきた!!

去る11月15日(土)、児童会館ピロティー(入り口)にフォーミュラカーと、群馬県在住のレースドライバー、小暮卓史さんが登場し、子ども達と楽しいひとときを過ごしました。



小暮さんのミニトークショーでは、一般の道路と同様、サーキットにも専用の交通ルールがあることを伺い、子ども達もびっくり。高速で走るからこそ、サーキットでもちゃんとルールを守るというお話を真剣に聞いていました。

カッコいいフォーミュラカーに乗りこえての撮影会では、誰もが満面の笑顔でポーズ！その他にもぬりえ大会やあつあつのとん汁サービスなど、盛りだくさんの1日でした。



子ども達は楽しい思い出と一緒に、これから毎日学校へ行くとき、遊びに行くときなど、交通ルールを守ろう！という、

小暮さんの言葉を思い出してくれると思います。

小暮さんは、小さい頃からぐまこどもの国にも遊びに来ていたそうです。「こどもの国仲間」の子ども達も応援しています！！安全に注意してこれからも頑張ってくださいね。

編集後記

中国、韓国、タイ、ロシア、ベラルーシなどにも干支があるそう。動物配置はほぼ同じだが、水牛年、豹年、猫年、豚年などの変化もある。問題：象年があるのはどこの国？

あなたの手のひらクリスマスコンサート



クリスマス目の12月21日(日)、星野富弘花の詩画集「あなたの手のひら」クリスマスコンサート～朗読と音楽のコラボレーション～が盛大に開催されました。

多目的ホールをうめた300人の観客の盛大な拍手に迎えられ、椿とさざんかで飾られたステージに上がるのは、「あなたの手のひら」から21編の詩を朗読する9人の太田市内の小学生、ソプラノ歌手北村さおりさんとピアノの牧野裕史さん、そして星野さんの詩に作曲をしたオペラ作曲家仙道作三さんです。



しーんと張り詰めた静かな緊張感の中、6年生の青木君の「春を待つ」の朗読、続いて美しいピアノの旋律にのせて、会場に響き渡るソプラノの歌声。

星野さんの詩を、時にはユーモラスに、時には寂しさと悲しさを、素晴らしい表現力と会場が揺れるような声量で北村さんは21曲を歌い終えました。朗読の子ども達も、このような大舞台はとても豊かな経験になったと思います。

会場の皆さんも星野さんからの、やさしさに溢れたクリスマスプレゼントを受け取ったことでしょう。また、コンサート終了後は豚汁サービスもあって、皆さん、お腹も心もホカホカにして帰って行きました。